

にほんめいざんずえ

#7 日本名山圖會

作者：谷文晁（たに・ぶんちょう 1763-1840）

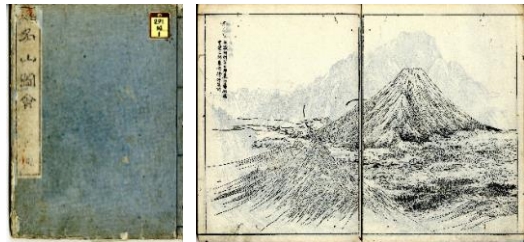
刊行：文化9年（1812）



📖 解題

■ 内容

岩手県盛岡の素封家川村元善は、山岳描写の絵を愛好し、谷文晁に描かせた名山図を数多く集めていた。文化元年（1804）、



[291/14]

谷文晁は川村元善の懇請を受け、川村邸の名山図を縮小した 88 図を『名山図譜』として纏め上梓した。文化2年版、文化3年版もある。

文化4年（1807）に川村元善の子、川村博が岩手山の図が盛岡から眺めた山の姿と異なるとして新たに岩手山、玉東山（一名姫岳）の図を谷文晁に依頼し、2図を加えて90図とし、文化9年（1812）『日本名山図會』として刊行したといわれている。これは我国はじめての山水画集であった。

川村元善が私家版として上梓したものが、谷文晁の名声により評判となり、増補して広く売出されることとなった。北海道から九州まで広範囲の山を名山として取り上げている。山の画を見て楽しむという目的で刊行されたため、目次、頁の記載はなく無秩序に収められている。

当館所蔵のものは「天」「地」「人」の3巻からなり、「天」に26山、「地」に30山、「人」に34山が収められている。奥付には「元治紀元甲子春」とあり、三都発行書肆として江戸日本橋通一丁目須原屋重兵衛ほか、8名の名前が記されている。

■ 作者

文晁は宝暦13年（1763）、江戸下谷根岸で生まれた。初名は文朝。文晁は

字。通称は文五郎。号は写山楼、画学斎など。17～18歳頃、中山高陽門下の渡辺玄対に師事。玄対は南蘋派や南宗画、北宋画の折衷様式を学んでおり、文晁もその影響を受ける。寛政5年（1793）、松平定信（白河藩主 老中首座 1758-1829）の相模・伊豆沿岸巡視に随従し「公余探勝図巻」（東京国立博物館所蔵）を描く。その後も定信の古文化財への深い関心からなる様々な事業に関わり、多くの古美術品を模写する機会に恵まれ、画風形成に大きく寄与したと考えられる。文晁の画風は非常に幅広く、寛政期を中心とした「寛政文晁」と、文化後半以降の「鳥文晁」の2つの時代に大別される。江戸時代後期の江戸民間画壇の雄として知られ、渡辺崋山（1793-1841）をはじめ多くの画家を門人とした。『画学大全』『本朝画纂』などの著書を残す。天保11年（1840）、78歳で没し、谷家の菩提寺・源空寺（東京都台東区東上野）に葬られた。

📖 本文を読む

< 翻刻 >

「日本名山圖會」（『大日本名所圖會』第2輯第2編 大日本名所圖會刊行會 1920） [291.08/8/2-2]

「日本名山圖會」（『日本圖會全』13 日本隨筆大成刊行會 1929） [291.03/56/13]

『新編日本名山図会』谷文晁著 青溪社 1977 [291/32]

※絵画の配列を地域別に整理し、巻末に山名、所在地についての説明を付加

📖 参考文献

森銑三「谷文晁傳の研究」（『森銑三著作集』第3巻 森銑三著 中央公論社 1971） [081.8/46/3]

小林玻瑠三「はじめに」「谷文晁と日本名山図会」（『新編日本名山図会』谷文晁著 青溪社 1977） [291/32]

『現代日本名山図絵』三宅修著 実業之日本社 2003 [291.09NN/608]

『谷文晁とその一門』板橋区立美術館 2007 [721.7/187]